

守谷市地域包括支援センター事業内容紹介

② 専門職研修

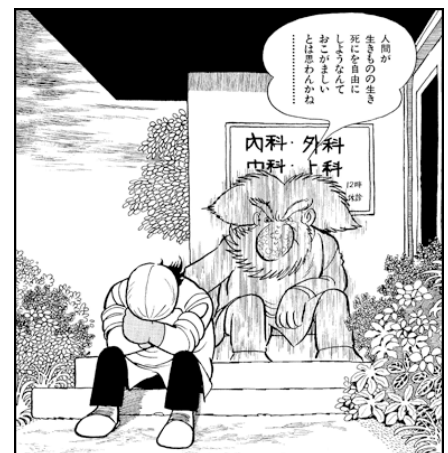
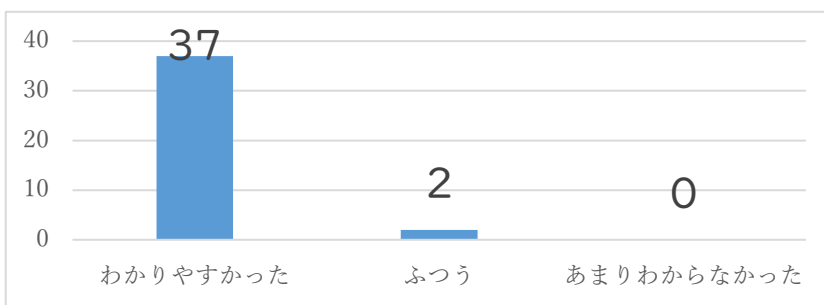
包括的・継続的ケアアマネジメント支援業務・権利擁護業務の一環として、専門職の資質向上を目的に実施している研修です。（主任ケアマネージャーの法定外研修も兼ねる）
地域包括支援センターが、普段の業務から専門職に必要なと思われる研修内容の協議を行い、両包括において年2回ずつ計4回の研修を実施しています。

専門職研修実施報告（守谷市北部地域包括支援センター）	
内容	在宅医療と他職種連携
実施日	令和6年7月5日（金）13:30～16:30
場所	守谷市役所 大会議室
参加者	計41名 内訳：主任ケアマネージャー14名、ケアマネージャー12名、施設管理者4名、 介護士4名、相談員3名、理学療法士2名、保健師1名、看護師1名
講師	医療法人社団 悠翔会 理事長 診療部長 佐々木 淳 氏
	・「どう死ぬかではなく、どう生きるか」 アドバンス「<u>ライフ</u>」プランニング ↑ ACP：アドバンス ケア プランニング（人生会議） ◎「自分（利用者）が希望する生き方」をサポートするのが専門職の役割

アンケート結果 回答39名

[参加者41名中 無記入2名]

1. 研修会の内容について(n=39)

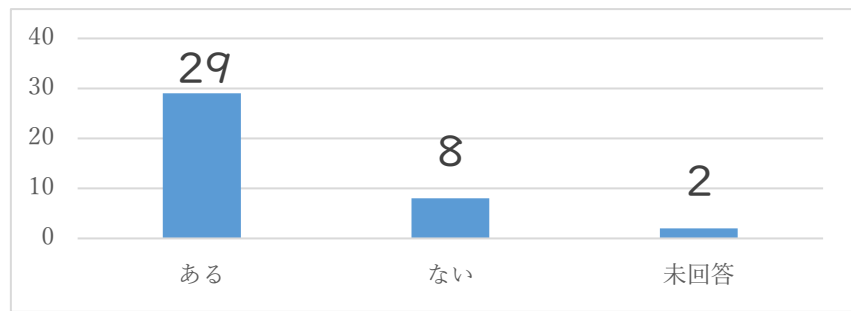


講師配布資料中より「ブラックジャック」

2. 現場で、連携が必要なケースで

悩んだことがあるか

(n=39)



- ・チームとして利用者の方向性の共有
- ・利用者や家族の意向と支援者との調整
- ・意思決定支援への介入、KP(キーパーソン)の不在、家族間の調整
- ・急な退院支援、医療機関からの情報提供／カンファレンス日程の調整
- ・医師、MSW や施設相談員との連携
- ・利用者の情報不足・関係者との情報共有
- ・末期がんのケースなど介護保険の申請、サービス調整、訪問診療の医師との連携
- ・病状と内服薬の調整、副作用等の情報共有
- ・本人の希望が強く、支援者側の意見を聞き入れてもらえない
- ・緊急時の対応

3. 実戦で活かせる内容がありましたか



- ・ACP:人生観の共有。本人の意思決定支援。支援者・本人・家族と共有できる場づくり。元気なうちに、気持ちを話せるうちから話し合っていく。普段の会話の中から確認する。
- ・本人を理解。その時その時の本人の思いを大切にする。
- ・本人・家族の意向を支援者が代弁できるようになること。
- ・ICT 等を活用し、地域連携、医療連携を行い支援者全体が同じ考えとなる必要がある。
- ・「誰のための支援」なのかということを大切にしていきたい
- ・その人らしく生きる事を中心に考えた療養生活支援計画を立案すること
- ・終末期、看取り、在宅医療について(医療ありきでない看取り)考え直すことができた
- ・高齢者の医療提供の実際／医療費や入院のリスク／薬・食事について等